

記 事

例会案内

日本医史学会 4月例会

令和4年4月23日(土)

1. 第32回矢数医史学賞 受賞記念講演  
『『感染症と法の社会史』とコロナ禍』  
西迫大祐(沖縄国際大学)

『感染症と法の社会史』は2018年夏に刊行され、その時点では世界的なパンデミックの到来は予期していませんでした。現在のパンデミックを考察するためにも、今回の報告では、本書の概要を今一度整理したいと思います。加えて、本書から現在進行中のパンデミックについて、何が語れるか/語れないかについても考えてみたいと思います。

2. 「日本の発明? 母子手帳の開発の歴史」  
中村安秀(日本WHO協会・大阪大学名誉教授)
- 1948年の日本で開発された「母子手帳」がなぜいまの世界に広がるのか? 母子の健康情

報を家庭で保管するという単純さがもつ先駆性を分析します。

以上は変更の可能性がありますので、必ず開催直前に医史学会のサイトをご確認ください。また、6月以降についても確定し次第、同サイトでご案内いたします。

<http://jsmh.umin.jp/events.html>



しばらくはZoomを用いたオンライン開催を継続いたします。参加方法については、日本医史学会事務局(jsmh@juntendo.ac.jp)にお問い合わせください。

また、本例会でのご発表を随時募集しております。ご希望の方は、演題・希望する月を明記の上事務局(同前)までご連絡下さい。原則として発表者は会員に限ります。

例会記録

日本医史学会 1月例会

令和4年1月22日(土)  
(オンライン)

1. 「ペラグラ再考 —歴史的変遷と課題—」  
伊藤泰広(トヨタ記念病院 脳神経内科)

2. 「我が国の腑分けの歴史と近代整形外科の父・各務文献」  
今井 秀(今井整形外科)